

第二章

ゆたかな縄文時代

今から約1万2・3千年前には、土器の製作が行われるようになり、縄文時代が始まりました。氷河時代も終わり、温暖湿潤な気候に基づくゆたかな自然環境の中で、狩猟・漁撈・採集を生業とするムラが営まれました。

ここでは、県内で調査された縄文時代のムラの様子を、また貝塚の発掘調査を通してわかった土器の移り変わりについて紹介します。

嘉倉貝塚 (栗原市)



遺跡遠景 (西から) 左奥が伊豆沼、右奥が内沼です。



大型竪穴住居跡
食器貯蔵庫、堀内最大の
竪穴住居跡です。

築館丘陵の東端、伊豆沼周辺の湖沼地帯に面した前期から中期はじめのムラの跡です。大型竪穴住居跡、掘立柱建物跡、貯蔵穴など多数の施設が、直径約60mの広場を中心に環状に配置されていました。これらは同じ場所で何度も建て替えられ、ムラは長い間、この地域の拠点として営まれていたと考えられます。こうした環状集落の全容が解明されたのは県内初であり、貴重な発見となりました。

山居遺跡 (石巻市)



カゴ断片
トチの実

カゴ断片とトチの実の出土状況

沢出口付近の調査風景

河川跡の中の塚(せき)状遺構からはカゴとトチの実が出土しました。流水を用いた水さらしか出土のための施設と考えられます。

中期終わり頃から晩期中頃の遺跡です。北上川下流域の山居沢が丘陵から平野に出る部分に立地しています。現在の地表面の約3～4m下から、多量のトチの実とともに多くの縄文土器が層をなして発見されました。出土したトチの実の多くは火を受け人為的に破碎されており、この場所がトチの実などのアク抜き処理をするための水辺の加工場であることがわかりました。

里浜貝塚 (東松島市)



貝塚増築状況断面
貝塚の中には土器や石器などが多く含まれてい
ます。調査によって層ごとに分けられ、白いカードが付けられます。



遺跡全景

台開地点の調査では、中期中頃の土器が古いもの(「大木8b式」土器)から新しいもの(「大木9式」土器)に順番に堆積していることがわかりました。こうした里浜貝塚の調査成果は、松本博士や山内博士の研究手法や縄文土器の編年体系の確かさを証明するものとなりました。

第三章

稲作農耕のムラ

今から約2,300年ほど前の水田跡が青森県弘前市砂沢遺跡から発見され、北部九州で始まった稲作農耕文化が本州北部にまで北上していたことがわかりました。今から約2,100年ほど前には、仙台平野でも水田による稲作農耕の安定したムラが見られるようになります。

鍛冶沢遺跡 (蔵王町)



再葬墓に用いられた土器 左下の土器には蓋として高坏が伏せて置かれています。

標高800mの青麻山の裾野に広がる大規模な遺跡です。前期の集石遺構や土器埋設遺構と呼ばれる墓跡、再葬墓跡が発見されました。自然の巨石の間に設けられた再葬墓には3つの壺が用いられ、そのなかの一つには高坏が蓋として使われていました。

第四章

古墳時代の仙台平野

仙台平野では、4世紀に入ると、ヤマト王権と関係を持つ豪族らによって前方後円墳などの大きな墓が造られるようになりました。当時のムラの人々は、弥生時代と同様に竪穴住居で暮らしていました。土師器という規格性の高い素焼きの土器が用いられ、後には大陸から伝わった須恵器も使われるようになりました。

沼向遺跡 (仙台市)



調査区全景と土器出土状況 (左下) 写真提供/仙台市教育委員会

宮城野区中野に所在する遺跡で、標高0.5～1.0mの微高地から低地にかけて立地しています。仙台湾の3列の浜堤のうち、最も内側の浜堤列から後背湿地にかけての地点にあたり、浜堤列の微高地からは竪穴住居跡や古墳が見つかっています。4世紀の古墳時代前期の住居跡からは土鍬がまとまって出土したことから、集落の近くに広がっていた潟湖で漁業を営んでいたと考えられています。

第V章

古代陸奥国の経営

宮城県北部では、7世紀中頃に評(郡)が設置され、8世紀には蝦夷支配の拠点として、多賀城を始めとする城柵が置かれました。こうした一連の施策は、関東地方や東北地方南部などからの移民と物資の供給によって進められました。

ここでは、牡鹿地方の城柵や横穴墓などで明らかになった関東地方との関わり、数多く調査された窯跡群、国府で行われた祭祀の様相について紹介します。

新田東遺跡 (石巻市)



桃生城跡東辺の北東部にあります。8世紀後半を中心とする竪穴住居跡や掘立柱建物跡が多数発見され、桃生城を支えた集落と考えられています。集落は桃生城と同様に火災にあってています。

年表

時代	年代	主なできごと	とりあげた遺跡	章
旧石器時代	約700万年前	アフリカで人類が誕生する		第I章
	約50万年前 約3万年前	北京原人が洞窟で生活する 後期旧石器時代が始まる	栗原市 伊治城跡 仙台市 山田上ノ台遺跡 村田町 賀籠沢遺跡 名取市 野田山遺跡 加美町 葉栗原No.15遺跡	
縄文時代	約1万2千年前	土器・弓矢が出現する		第II章
	約5000年前	三内丸山遺跡(青森県)で集落が営まれる	栗原市 嘉倉貝塚 蔵王町 霧堂山遺跡 東松島市 里浜貝塚 石巻市 山居遺跡 白石市 矢越遺跡	
弥生時代	紀元前400頃	東北地方で米作りが始まる 吉野ヶ里遺跡(佐賀県)	蔵王町 鍛冶沢遺跡 仙台市 高田B遺跡 名取市 原遺跡	第III章
古墳時代	紀元後300頃	豪族が盛んに古墳を造る 雷神山古墳(名取市)、遠見塚古墳(仙台市)	仙台市 沼向遺跡 仙台市 鴻ノ巣遺跡 仙台市 原遺跡	第IV章
飛鳥時代	645	大化の改新	東松島市 赤井遺跡 東松島市 矢本横穴墓群 大崎市 六月坂遺跡	第V章
奈良時代	710	平城京(奈良市)に都を移す	大崎市 木戸窯跡群	
	724	多賀城が築かれる	利府町 硯穴窯跡	
	752	東大寺の六仏が完成する	石巻市 新田東遺跡	
平安時代	780	伊治公麻呂の乱が起こる	利府町 大貝窯跡	
	794	平安京(京都)に都を移す	仙台市 与兵衛沼窯跡 多賀城市 山王遺跡 多賀城市 市川橋遺跡	
鎌倉時代	1167	平清盛が太政大臣となる	角田市 郷主内遺跡 東松島市 矢本横穴墓	第VI章
	1192	源頼朝が鎌倉幕府を開く		
室町時代	1274・1281	文永・弘安の役(元寇)		
	1338 1467	足利尊氏が室町幕府を開く 応仁の乱が起こる	登米市 石倉窯跡 仙台市 洞ノ口遺跡	
室町時代 戦国	1590	豊臣秀吉が全国を統一する	本吉町 町頭塚	第VII章
江戸時代	1603	徳川家康が江戸幕府を開く	仙台市 仙台城跡 仙台市 若林城跡 岩沼市 長徳寺前遺跡	

矢本横穴墓群 (東松島市)



赤井遺跡の南西4.5kmの標高10-40mの丘陵斜面にあります。長さ約1.5kmの範囲に200基を超える7世紀中から9世紀前半の横穴墓の存在が推測されています。横穴墓には、淡道と玄室の境に段をもつ房総地方の横穴墓に類似するものがあり、東海地方で生産された須恵器、鉄刀、馬具なども出土しました。赤井遺跡に関する役人や牡鹿地方の豪族の墓と考えられています。

六月坂遺跡 (大崎市)



多賀城創建期(8世紀前半)の瓦や須恵器を生産した木戸窯跡の東約300mにある7世紀後半から8世紀前半の横穴墓です。玄室の平面形が逆台形で、相模地方の横穴墓に似たものでした。横穴墓からは木戸窯産の須恵器が出土しています。

与兵衛沼窯跡 (仙台市)



台原・小田原丘陵にある多賀城修復期以降の瓦を焼いた8世紀後半から9世紀の窯跡です。東北地方で2例目となるロストル式平窯が発見されています。この窯からは、棟平瓦と考えられる珍しい瓦が出土しており、貞観11(869)年の陸奥国大地震の復興瓦を焼いた窯であることがわかりました。

第Ⅵ章

中近世の信仰

人々は、死者の冥福を祈り、年忌供養などの追善供養を行いました。また、死後における極楽往生、現世を安らかに生きること、子孫繁栄などを願い、神や仏に祈りを捧げました。ここでは、武家の屋敷での信仰、経塚など埋納による信仰、板碑について紹介します。

矢本積石塚 (東松島市)



積石塚と礎石出土状況 (右下) 写真提供/東松島市教育委員会

古代の横穴墓を再利用した鎌倉時代(13世紀後半)の積石塚が発見されました。積石の内部には火葬骨の散布が見られるとともに、その中央には底を欠いた常滑焼の大甕が逆さにすえられ、内部には妙法蓮華経(法華経)28品を含む32品の題が書かれた河原石(礎石)が納められていました。

町頭塚 (本吉町)



塚と経筒出土状況 (左下)

馬籠にある町頭塚と呼ばれる経塚から3口の金銅製経筒が発見されました。経筒は、銘文から2口が天正6(1578)年に、1口が永禄3(1560)年に奉納されたものでした。大きさや形態、定形化された銘文などの特徴から、全国六十六ヶ所の霊場を巡った廻国聖によって奉納されたものと考えられています。

石森館跡 (登米市)



調査区全景と板碑が出土した水溜跡 (右下)

中田町の石森館山と呼ばれる小丘陵にあります。館跡の一角から6点の板碑が発見されました。年号のわかる1点は南北朝時代の貞治3(1364)年に33回忌の追善供養として立てられたものでした。他に種子や銘文が金箔で装飾されたものが3点ありました。石森館跡では、明治25年に40基の板碑が発見されており、館の一角が供養の場になっていたと推測されます。

第Ⅶ章

仙台城と若林城

二つの城は、初代仙台藩主伊達政宗が築いたものです。仙台城は、政治的支配の中核として、また大名の権威を示す象徴として築城されました。若林城は政宗晩年の居所として寛永4(1627)年に完成しました。

ここでは、発掘調査で明らかになった仙台城の石垣の変遷と、二つの城から出土した瓦について紹介します。

国史跡 仙台城跡 (仙台市)



石垣の調査 写真提供/仙台市教育委員会

伊達政宗が中世の山城を改修し、慶長7(1602)年に完成した城です。急峻な地形を巧みに取り込んだ防御性を備えた山城でした。二代藩主伊達忠宗によって寛永15(1638)年に降に、麓の二の丸が整備され、政庁としての機能も本丸から二の丸に移りました。

MEMO

【次回特別展】

『むかしをたんけん！
こどもの世界』
～とつげき！おもしろはくぶつかん2009～
開催：6月27日(土)～8月30日(日)